

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第1回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）平成29年度地域活動支援事業の完了について（公開）

（2）平成30年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成30年5月17日（木） 午後6時00分から午後9時44分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

11人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：水澤俊彦（会長）、橋本 勲（副会長）、秋山澄子、有坂正一、
泉 幸雄、市橋邦夫、植木泰行、笠原完治、高橋善昭、土屋史郎、
前川正治

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【佐藤係長】

・岩澤委員、小林委員、平原委員を除く11名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は水澤会長が務めることを報告

【水澤会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：市橋委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

—平成29年度地域活動支援事業の完了について—

【水澤会長】

次第3報告(1)「平成29年度地域活動支援事業の完了について」に入る。

事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

—平成30年度地域活動支援事業について—

【水澤会長】

次第4議題(1)「平成30年度地域活動支援事業について」に入る。

今年度の提案事業全てについて、提案者の事業説明と質疑応答のあと審査、採点をし、事業の採択、補助金額等の決定を行う。

正副会長は審査、採択に加わるため、事務局に会の進行を求めることを諮り、委員全員の下承を得る。

【佐藤センター長】

- ・提案…7件補助希望額計814万5千円、予算配分額比204万5千円超過
 - ・1事業につき、事業説明5分以内、質疑応答8分以内、審査と採点2分以内
- 今の説明について質疑を求める。

【水澤会長】

この間に休憩は挟むか。

【佐藤センター長】

休憩は予定していない。

【水澤会長】

一気に7件全部を審査した後か。

【佐藤センター長】

審査終了後、事務局が集計中に10分程度の休憩を予定している。

【水澤会長】

委員にはその覚悟で願います。

【佐藤センター長】

審査、採点を始める。

整理No.1「住民の安全・安心対策と交流促進事業」について、提案者に説明を求める。この団体は当日配布資料があるということなので、これから配布する。

【提案者】

— 事業概要に基づき説明 —

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【水澤会長】

事業実施について、今回予算額がかなりオーバーしているので、減額されることもあり得る。もし減額された場合、この事業は実施できるか確認したい。

【提案者】

今年を住民の安全・安心対策事業の再スタートの年と位置付けている町内会としては、自己努力で最低限の申請をしているし、30パーセントという多額の削減なので、事業を実施できるかという仮定の話には、回答するのは非常に難しい。しかし、もし来年度、削減分を特例として認めてくれるということが可能であれば考えたい。

【水澤会長】

分かった。

【橋本副会長】

説明の中で、必要なら他町内へもという話があった。この資機材はどこに保管するのか。

【提案者】

石沢公会堂の隣に倉庫があるので、整理して、そこに保管しようと考えている。

【橋本副会長】

分かった。

【佐藤センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.1「住民の安全・安心対策と交流促進事業」の審査を終了。

続いて整理No.2「上越妙高駅でひな祭り事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

— 事業概要に基づき説明 —

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【水澤会長】

全提案者に質問するのだが、事業実施について、今回補助金の減額があった場合、この事業を実施できるかどうかを聞きたい。

【提案者】

私たちの方でも検討したが、減額の場合は大変厳しいと考えている。ぜひこの予算の中で実施させていただきたい。

【土屋委員】

今減額が厳しいという話があった。重箱の隅をつつくようで申し訳ないが、チラシが4,500枚も必要なのか。それとのぼり旗を50枚、新規で作ると。今までのものでは間に合わないのか。

【提案者】

まずチラシの4,500枚だが、これは和田区全域に2,000枚、市役所関係、行政関係に1,500枚、駅に置いておく利用者の方がそれを持っていくので500枚、それと私ども会員、高田本町通り、昨年連携した頸城区、大和中心の商店街に配置して、4,500枚を使い切った。

のぼり旗については、去年も作らせてもらったが、去年ののぼりは上越妙高駅というのがメインだった。そこに上越市の酒や米など、そういったアピールしたいものを図柄にしてある。それももちろん使うが、今回はひな祭りをメインにしたところの50本をお願いしたいと思う。こちらの予算の中では、もちろんポールも壊れるがこれは以前から使用していたものを活用して、旗だけをお願いしたいと思って計上した。

【土屋委員】

随分PRされてきて、市民の皆さんにも分かるようになってきたという話だった。例えば大和小学校、和田小学校などにポスターを貼付する程度でよいのではないか。各家庭に1枚ずつチラシを配布するのではなくて、町内会の回覧板だけでいいとか。その辺はまた検討してみしてほしい。のぼり旗はできるだけ再利用したらどうか。

【提案者】

もちろんのぼり旗については、去年作った上越妙高駅のものは利用する。ただ今年はお雛様メインの図柄にしたいということで計上した。

【土屋委員】

ひな祭りは皆さんよく分かってきていて、駅中が賑わっており、ぜひこれは続けていってほしいと思う。

【高橋委員】

何回か見させてもらったが、非常に見応えがあつてきれいであり、とてもよい事業だと思う。展示スペースが4畳と8畳ということだが、もう少し広げることにはできないのか。

【提案者】

駅の方と協議させてもらったが、最大限あのスペースを提供してもらっているので、あれ以上に拡大ということは大変難しいのではないかと思います。

【笠原委員】

おもてなしのシンボル事業、今年で3年目になる。提案者として、お客さんの反応を聞きながら、ずっとひな祭りをやるのか。今後の見通しがどうなっているのか。やはりひな祭りは外せないという自信が湧いてきたということか。長期ビジョンか。

【提案者】

これは賑わいの創出とおもてなしということで、私たちは始めさせてもらった。ここに着目したのは、2月の季節というのは大変上越妙高駅が寂しいので、そこを少しでも上越のイメージアップにつなげたいというところから始めた。文化伝統ということで、この後も継続していければと。10年20年というスパンでは考えていないが、少なくとも開業して5年くらいは、そういったことを継続していきたいと考えている。

【佐藤センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.2「上越妙高駅でひな祭り事業」の審査を終了。

続いて整理No.3「今泉城跡の大ケヤキ保護活用事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

— 事業概要に基づき説明 —

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【水澤会長】

事業の実施について、補助金の減額があった場合でも、この事業を実施するか。

【提案者】

減額の額にもよるが、一番最後に説明したとおり、この時期のタイミングは非常に重要で、行政の評価の判断が決定される年度になると思う。ふるさとのゆかりの

大和神社のところにある、今泉城跡という説明板があるが、これを修復する事業が、今年度予算化されている。この事業に際して、今まで大ケヤキのことは文言が一言も入っていないが、その大ケヤキの文言をどういう形で評価してもらい、入れられるかというのが、この年の勝負どころである。そういう意味では活動を継続していくというのが、地域の熱意と熟度を行政側から評価してもらうことになる。そういうことで、どうしても継続しなければならないと思っている。

【水澤会長】

事業ができるかできないかだけを教えてほしい。

【提案者】

やる決意である。

【水澤会長】

分かった。ではもし減額されても自己資金でやるということか。

【提案者】

どうなるか分からないが、調整する。

【土屋委員】

4か年計画ということで、去年から初めて今年2年目か。来年再来年はどういうことを考えているのか。

【提案者】

次年度以降の活動の見通しにも載せている。主に樹勢回復措置が、少なくともこれから3年は必要。今回やるものはその中の1年目ということ。中には1回でやらなければならない部分があり、整枝剪定は1年間で決着しなければならないが、例えば土壌改良などは3期になるし、周辺の樹木の伐採については1年置いた2期になる。樹勢回復措置については少なくとも3年間の時間が必要である。

【有坂委員】

創作活動として、このケヤキに関するいろいろな作品を募集という形だと思うが、ジャンルは問わないということか。それと募集で提出された品物は、どこかに保管するなり、展示するなりの予定はあるのか。

【提案者】

ジャンルは問わないが、例えば特に子ども達には絵を描いてもらうことが想定される。あとは小説、俳句、短歌、エッセイなどの文芸作品なども想定している。それから作品をどうするかについては大変苦労した。学校の校舎のように、できた作品をそこで飾るということができず、機会もない。そこでここに挙げたのが、新聞。少なくとも提出者の名前などを掲載したり、代表的なものがあるか分からないが、スペースがあれば掲載したい。それから、まだ協議はしていないが、今後子ども達のことを考えれば、文化財の作品で兼用できるものがあれば、それはそういう形の中での展示の仕方と、私たちの思いを伝える記念品の進呈ということも、コラボ的にできるかもしれない。そこはまだ学校側と協議はしていないが、そんなことを想定している。

【高橋委員】

今後樹勢回復措置を3回されるということだが、それをやっても元気にならないということはあるのか。

【提案者】

専門的なところなので、断定はできないが、これは高田公園の桜を担当している樹木医さんのチームがやる。県内でもトップクラスで、責任を持ってやってもらっている。榊神社のしだれ桜もやった。次からは非常に樹勢が、勢いがついたらと宮司さんからも聞いている。桜のように花が咲くわけではないので分からないが、それは信頼してよいのではないかと思う。

【佐藤センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.3「今泉城跡の大ケヤキ保護活用事業」の審査を終了。

続いて整理No.4「和田小学校PTA 野球部・バレーボール部活動支援事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

— 事業概要に基づき説明 —

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【水澤会長】

事業を実施するに当たり、もし補助金の減額が発生した場合、それでもできる事業なのか。

【提案者】

部活動は続けていくが、ユニフォームについては駄目なら、来年度も絶対に申請したいと思う。見てもらってのとおり、このようにはげたり、後ろの方も、ゼッケンがこのような形になっており、四半世紀着たユニフォームを変えてあげたいと思う。どうしても削るということであれば、用具はまたその後でもと思っている。ユニフォームだけは必ず通してもらいたい。情けない話だが、和田小学校のPTA会費ではこれだけのものを買う予算がない。親の数は87名で、月500円で積み立てても、この予算のお金が出ることはないので、よろしくお願ひしたい。

【前川委員】

バレーボールのユニフォームは、予算額が記載されているだけで内訳が書かれていない。何着必要としているのかを説明してほしい。

【提案者】

15着、上のユニフォームだけである。

【前川委員】

野球部は。

【提案者】

18セット。18人分である。

【前川委員】

これは選手の人数が18名と15名ということか。それともそれ以上選手がいるということか。

【提案者】

バレー部は現在13名である。

【前川委員】

13名で15着買うということか。

【提案者】

野球部は現在16名。今後のことを考えて2着多めにしてある。

【泉委員】

今回購入予定のものも、PTAの財産として、ずっと引き継いでいくということか。個人貸与ではないか確認したい。

【提案者】

そのとおり。

【市橋委員】

選手の数は分かったが、監督もユニフォームを着たいのでは。

【提案者】

監督の方も、試合に出るので。

【市橋委員】

この中に入っているのか。

【提案者】

入っている。

【市橋委員】

分かった。

【高橋委員】

ユニフォームは、人数より多めに購入するということだが、やはりサイズがあるので、できればもう少し多めに注文した方がよいのではないか。

【提案者】

最低の見積りということで、このような人数になっているが、余裕があれば、購入させてもらいたいのが事実。バレーボールは9人、野球部も9人。最低でも本当は両方ともその倍は要するというのが理想的なので、18という数はあった方がよいと思う。

【佐藤センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.4「和田小学校PTA 野球部・バレーボール部活動支援事業」の審査を終了。

続いて整理No.5「和田の歴史を作る会事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

— 事業概要に基づき説明 —

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【水澤会長】

事業実施について、もし今回補助金の減額があったとしたら、実施をするかどうかを教えてほしい。

【提案者】

地域の皆さんが非常に期待されている。それから学校関係では総合学習に役立てるために早く欲しいと要望を聞いているので、皆さんの温かいご理解、地域の皆さんの要望に応えるために予算をお願いしたい。

【水澤会長】

減額されても実施されるということでよいか。

【提案者】

はい。

【有坂委員】

先ほどの説明で、発行部数が1,800部と聞こえたが、提案書には1,900部となっている。どちらが正しいのか。

【提案者】

1,800部は誤り。1,900部が正しい。先ほどお話したが、全体戸数が約1,700戸ある。両小学校と中学校にあげるために部数を多くした。訂正する。

【泉委員】

上越妙高駅と共に歩む会と和田の歴史を作る会だけで、和田区の予算の9割を占めている。他に申請された皆さん、今年初めて申請された方のプレッシャーになってしまう。例えば、200あるいは300部を次年度に回してやるという考えはないか。

【提案者】

それも皆さんと話し合ったが、部数を増やしてもわずかな金額ではないので、できれば一括で作りたくと考えている。

【橋本副会長】

この企画をされた方の気持ちはありがたいが。全戸に配るという話。いろいろな予算の関係があることも加味されて、例えばこういうものは全戸に配るというのは1つの考えだと思うが、各町内に3部ずつとか、それから今言われた学校関係などに数冊とか、そういうことはできないか。つまり、全戸となると1,800、1,900部になるわけだが。

【提案者】

学校関係にも配る予定である。

【橋本副会長】

全戸になると千数百戸になる。つまり1軒あたり1冊。配られた皆さんからすればありがたい話だが、こういうものは各町内に2、3冊とか、学校にもそのくらいにするとか、予算の関係もあるので、そのような考えはできないものかを聞きたい。

【提案者】

そういう考えはない。旧村史を有料で希望配布したが、なかなか全体に渡っていなかったそうである。そこで今回は皆さんに配り、和田の歩み、それから今後のことについてお互いに理解してもらって、明るい地域を作りたいという考えから、全戸配布と考えている。

【市橋委員】

話も分かったし、よい考えだと思う。ただ私が心配しているのは、先ほどから出ているように、予算額がオーバーしている。泉委員が言われたように、例えば減額

になったら、それを来年度に回すとか、もう少し考えてもらった方がよいと思う。他の団体がせっかく提案してきたのに、予算が無くなってしまう感じがする。できたら来年また提案してもらって、予算が付いたらやるというような方法ができればよいのかなと思う。

【提案者】

私は全体の予算を分かっていないので、何とも言えないが、今言われたことも私なりに考えた。ただ来年もこういう地域の活性化のための制度があるのかどうか。全市の協議会委員の皆さんからは、市の方に強く要望してもらって、来年も同じように予算の確保をしてもらいたい。

【高橋委員】

全戸に配るということだが、率直な気持ちを言わせてもらおうと、配った全戸の皆さんが本当に読んでもらえるか、それが非常に心配である。例えば何も読まないで捨てたり、そういう可能性も無きにしもあらず。そうすると1冊1,600円が全く無駄になってしまう。私の考えであれば、先ほど橋本副会長から意見が出たが、まず各町内にある程度の部数を配って、それを回覧して、町内でまず内容を把握してもらい、その後に、これはすごく良いものだから、本当に欲しいという方の希望を募る。まずそこから始めた方がよいと思う。

【提案者】

先ほど申した振興協議会の方が主になり、町内会の後援ということでやっている。町内会長の皆さんにもお願いして、各地域、各町内で是非愛用してもらいたいと啓蒙してもらっている。それからもう1つ、旧村史には和田地区の歴史文化と今日までのことについて、載っていない部分がたくさんあった。大切なことは、今回はそういう部分を深く追及しながら、全て載せていきたいと考えている。委員が言われたように、読まないで捨てられてしまうのではないかということについても私たちは話をした。町内会長さんがおられる席では、この点について話をし、是非宝物として大切に読んで保存してほしいと常にお願ひしてきた。

【佐藤センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.5「和田の歴史を作る会事業」の審査を終了。

続いて整理No.6「大和5・6丁目自主防災活動支援事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

— 事業概要に基づき説明 —

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【水澤会長】

この事業実施について、減額されても実施するか確認したい。

【提案者】

整備する時にはきちんとしないと、だらだらやってもよくない。一度に入れ替えをした方がきちんとした新しいものを利用して訓練できる。今年も9月3日に町内の自主防災訓練を予定している。そのとき今回この提案事項が認められれば、こういったものを使って訓練したいと考えている。

【水澤会長】

実施するという事で理解させてもらう。もし減額された時は、自主財源でも実施するという事でよろしいか。

【提案者】

自主財源とは。足りない分のことか。

【水澤会長】

そのとおり。

【提案者】

足りない分は、町内会の皆さんと相談しているが。

【水澤会長】

実施するかしないか。それから自主財源を使ってでも実施するかを聞きたい。

【提案者】

それは私の一存では答えられない。会計と相談しないと。でもやりたいと思っている。今やらなければできなくなるので。

【水澤会長】

提案の時にそれは考えておいてもらわないといけないことだと思う。提案者どなたにも言えることだが、補助が満額受けられることを前提で考えることではない。

【橋本副会長】

防災関係となると、市の方でも補助を出していると聞いている。

【提案者】

あれは何割だったか。市は全額補助ではない。

【橋本副会長】

最大で30万円しか出ないが、その辺はこの計画の中で考えたことはあるか。

【提案者】

考えたが、地域協議会に地域活動支援事業で申請して満額認められれば整備できると思い、今回提案させてもらった。

【土屋委員】

大和5・6丁目の町内会では、高層マンション、アパートを含めて自主防災訓練をやるようだが、例えば比較的高層のマンションは高田地区とか、春日山にたくさんある。ああいうところではどういう防災訓練や連絡方法を取っているか、調査したことはあるか。

【提案者】

そこまでは調査していない。

【土屋委員】

この地区では比較的高層のアパートやマンションはあまりない。だからそういうところでどういうことをやっているか、どういう器具が必要なのか、調査した方がよいと思う。

【提案者】

確かにそのとおり。

【土屋委員】

本当に町内会が入ってやっているのかも疑問。高層マンションは、全然別個の組織でやっているのかもしれない。分からないが。

【笠原委員】

高層マンションというのは、いざという時に、その部屋に誰が居るかというのはどこかに表示があるものなのか。これは非常に大事。例えば実際の災害になったら、責任者がそのフロアに行って、この部屋に今居るのか居ないのかが分かるものなのか。

【提案者】

そこまではわからない。マンションは普段から行っても入れない。

【笠原委員】

縁が薄い。

【提案者】

縁が薄いといっても、町内会に入っている人が半分おられる。声がかかればみんなの手分けしてやらなければならない、地域の自主防災組織としては。

【笠原委員】

参加率、参加してもらおうということ。

【提案者】

そのためにもこういったものを揃えて、それを利用しながら、効果的な訓練を図っていきたいと思う。

【佐藤センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.6「大和5・6丁目自主防災活動支援事業」の審査を終了。

続いて整理No.7「音楽文化による上越妙高駅とその周辺地域の賑わい創出事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

— 事業概要に基づき説明 —

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【水澤会長】

この事業の実施について、もし補助金の減額があったとしても、この事業は実施するか。

【提案者】

実施する。

【前川委員】

支出の部の中で、ラジオ番組の放送料が16万円と高額になっているが、こんなにかかるのか。無料提供でできる方法はないのか。

【提案者】

15分の番組の枠を使わせてもらうということで話をして見積りをいただいた。それをそのままを載せている。そこでもっと安くというのは一応話したが、最終的に出てきた金額である。地域に同じような事業者はいないので、相見積は取れず、とりあえずそれを出した。

【泉委員】

事業結果概要書を見たし、今年の計画も聞いたが、上越妙高駅で実施するという名目だけで、和田区の参加者はほとんどいない。保育園も下門前から来ている。私はこの事業は適合しないと思う。厳しい予算の中である。この地区の出演者はどれだけいるのか教えてほしい。

【提案者】

和田区の出演者は、一般のバンドの人たちと3人くらいやっている。高校生はたくさんいるので、地元の方かは把握していない。相対的に見れば、和田区の出身者が少ないと言われれば、そのとおりである。

【泉委員】

それをなぜこの和田区の地域協議会に提案するのか。

【提案者】

優先採択事業の中に上越妙高駅を中心とした地域の活性化という目的があることから、出演者が和田区の出身か問われないのかと思い、今まで提案していた。この地域の活性化になればよいと思ってやっている。

【佐藤センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

- ・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

No.7「音楽文化による上越妙高駅とその周辺地域の賑わい創出事業」の審査を終了。

— 10分休憩 —

— 審査採点結果説明 —

- ・基本審査で不適合が過半数となった事業なし
- ・優先採択審査でその他の事業となった事業なし
- ・共通審査の委員採点で得点が多い順に順位づけ（満点は275点）

1位 整理No.1 住民の安全・安心対策と交流促進事業 194点

2位 整理No.2 上越妙高駅でひな祭り事業 188点

3位 整理No.4 和田小学校PTA 野球部・バレーボール部活動支援事業
184点

4位 整理No.6 大和5・6丁目自主防災活動支援事業 183点

5位 整理No.5 和田の歴史を作る会事業 181点

6位 整理No.3 今泉城跡の大ケヤキ保護活用事業 163点

7位 整理No.7 音楽文化による上越妙高駅とその周辺地域の賑わい創出
事業 146点

審査採点結果に基づき、水澤会長に採択審査の進行を求める。

【水澤会長】

採択事業と補助金額の検討を始める。

基本審査での不適合が過半数となった事業はないので、全ての事業を審査対象とするがよいか、また、和田区の予算610万円に収まるよう、採択とする事業や補助金の配分方法について検討することでよいかをそれぞれ諮り、委員全員の了承を得る。

ルールについて、1点目、採択する事業は、提案事業の順位が確定した後、和田区の予算610万円、これを目安として委員の間で協議して検討する。2点目、個別の事業への補助額は採択事業の検討結果を踏まえ、地域協議会で検討する。

そのため額については補助額の減額もありということである。当然全ての事業に満額補助はできない。各委員の皆さんから意見を伺いながら、検討していきたい。今回減額する金額が大きいのと、採択事業の検討をしなければならない。提案者が傍聴席にいると言いつらいかもしれないが、はっきり発言してもらって結構である。

【前川委員】

1点目だが、優先順位がまず基本だと思う。この優先順位を基本に、基本審査、それから優先採択審査を。基本審査の中で、2人の方が適合しないという方向で挙げている。

【水澤会長】

7番か。

【前川委員】

そう。そういったところを考えた中で、順位を中心にした減額体制にするのか、パーセントを掛けてやるのか。また他の方法で、点数が良いから、あるいは内容が良いから、減額しないでそのままいくべきか、を図ってほしい。他の方の意見を聞いてからだが。

【水澤会長】

いろいろな意見があると思う。

【植木委員】

基本審査の段階で、適合しないという委員が若干名いたようだが、適合しない人は採点をしていないので、結果的には合計点としての順位に大きく差別化されてし

もう結果になっている。採択の順位だけではなくて、内容確認した中で減額も議論しないといけない。でないと極端に順位だけを考えてと偏った結果になる。順位からいったら不利な状況になると思う。

【笠原委員】

確かにそうだが、11人の審査の中で2の方が基本審査に外れると評価している、これを重くみないと。元々減額する方法は決めていなかった。ケースバイケースで。だが基本審査に適合しないというのは2人もいた。これをどう見るか。ここは無視できない。

【有坂委員】

不適合が2人いるということは点数が減るのは当たり前。それは減額の対象としてより大きく見てよいと考える。そうすべきこと。でなければわざわざ不適合にする理由はない。それと補助額を減らしてもよいという考えで不適合にしたと思う。それは当然重視すべきことだと思う。

【高橋委員】

今回200万円からの予算オーバーということで、その中で考えると、整理No.7の事業の取組は不適合と考えるということだったのか、それともやる事業自体がもう2回も現実に事業されているわけで、その時も不適合にしたのか、その辺は疑問だが。たまたま予算オーバーしたから不適合にしたのか。

【水澤会長】

これについては、その2名から意見を聞くわけにはいかない。不適合と評価した委員が2名いたことは事実。あとの他の事業に対しては、1人もいなかったというのが現実なので、これだけ踏まえてもらえばよいと思う。基本審査のことに関してはこれでよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

他に意見はあるか。当地域協議会でのルールをきちんと決めていなかったのも、良いような悪いような部分もあるが。ただその時に協議する、これも必要だと思う。

【笠原委員】

それが和田らしさということで決めた。

【水澤会長】

わずらわしくなる可能性もあるが、それはしっかり皆さんの意見を聞いて、採択事業と補助金額を決定する。当然採択された事業の中でも減額もあるし、附帯意見を付けるのもありである。いろいろなケースがあるので、皆さん委員の意見と、最終的には総意になるのを理解してほしい。それを踏まえて意見を求めたい。

【泉委員】

2つの団体の要望額で9割の予算を占める。今まで私たちが議論してきた中で、和田地区の活性化というのが最も大きなテーマとしてきた。そうすれば新しく今回支援事業を利用してみようと考えた団体が出てきているということを含めると、その人たちの優先順位を上げていくのか。あるいは何回か実施した団体、継続された事業などを優先的に上げていくのか。この辺の判断をどうしていくのか、と思っている。

【笠原委員】

その時に削減の方法を先にしなければならない。いろいろとあるが、最もフェアな方法を考えなければならない。その時に、削減した金額というのは来年、特例で認めてもらえるのか、これは非常に大事なことだと思う。300万、400万円オーバーした時にどうするか。しかも1回当たりの上限を決めていない。610万円の事業で300万円以上はやめようというルールも決められないし。ここでリカバリーショットを打てるのか。特例で口約束できるのかと。であれば受取側は違うと思う。それがフェアかどうかは論議すればよい。そういう場面だと思う。それなら下から切るかと。それもフェアではないのでは。1つのフェアかもしれないが。

【有坂委員】

来年に唾を付けておくのは、正しいやり方ではないと思う。今回ここで減額されて当然予算よりも減るわけだが、それはまた来年の協議会の申請の時に上げてもらうというやり方で。そこで通れば継続ということにしなければ。ここで来年のこの分のために約束してしまうと、また新たにどンドンいっぱい出てきた時に、まずそれを優先的に使わなければならない。そうするとまた他の人がより狭くなってしまうので、約束しない方がよいと思う。単年度で決めていく方法がよい。

【水澤会長】

単年度での決済だから、来年再来年というのは私たち委員からも約束できないし、するべきではない。

委員に聞いてみたいのだが、今回の7事業とも補助率がほぼ100パーセントに近い。まず自己資金がなく事業を計画している。この辺は以前の会議で一部委員からも話があった。自己資金なしで計画して、それができなかった時に、ではやめるとなるのかどうか。質問の時に各提案者に聞いたのはその辺である。補助金額がなくても事業は計画してやるというのであれば、いくら減額されてもやってくれるものだから補助してもよいと思う。1円たりとも補助金がなければやらないというのは、本来提案しても良かったのかどうか。当然この610万円という和田区の予算は皆さんご存知で提案してきていると思う。提案数が多い、提案金額が多いケースも考えられるわけだから、その辺は各提案者が決めもらうことを望む。他の協議会の例ではないが、提案の中身を見ると100パーセントに近い補助率の事業ばかり。他の地域協議会での結果の中には2割3割の補助を申請して通っているものもある。かなり多くの件数が出ている地域協議会もある。過去の審査採択も見ながら、補助金の提案をしているだろうが。その辺も含めて意見を伺いたい。

【泉委員】

会長の意見は少し酷ではないか。今まで私たちは自己資金がないから、この地域協議会のお金を使わせてもらうという趣旨でいたはず。そのことによってそれぞれの地域の発展につながっていく、あるいは色々な場面で貢献できるという風に判断して補助金を出し、ずっと今日までやってきた。それが今になって今年は駄目だと、自己資金がゼロだからおかしいと切り捨てるのは困る。今まで私たちがやってきた過程からすると違う。

【水澤会長】

もちろんそう。ただこういう結果が出てきたということは、今後のことも考えなければならないということも含めた話である。

【市橋委員】

私の考えだが、今まで満杯になることはなかったところ、今回は200万円という多額なマイナスが出てきたということは、みんなやる気を持ってもらっているわ

けだから、7事業で平均に減らしてもらった方が一番よいと思う。全額やりたいところもあるが、そうすると非常に格差が出てくると思う。

【水澤会長】

全事業を採択し、補助減額を全事業ですということか。

【市橋委員】

全事業から減額するということ。

【有坂委員】

優先採択事業として一応皆さんがオッケーだと、1つだけ適合しないのが2名いて、それは減額にしても考慮する必要があると思う。どこを100パーセントで見ても、どこをいくらか切るかという判断をするのは非常に難しい。当初はこの一覧をもらった時に、減額する方法として私が考えたのは、いわゆる地域防災というのは、今地震とか、子どもの安全ということで、この前新潟でも事件があったが、ああいったことを考えた場合に、まず最優先は地域防災だと考えていた。2件地域防災の関係が出てきているが、それをまず100パーセント認めて、残り200万円不足しているのを、案分して減額するという方法がよいと考えた。今日ここで結果として、1事業だけ不適合者が2名出ているので、そこをどういう率で落とすかは、考えなければならないが。そこだけより減額を大きくするのがよいと考えている。

【土屋委員】

3年計画とか4年計画で、昨年から出てきている案件がある。それをここで断ち切ってしまったらどうなるのだろうと。やはりその辺も考慮しないといけないのではないか。要するに昨年から継続している事業に対して。ただし、どのように減額していったらよいかという案は今のところない。

【前川委員】

順位を基本にして、それに平均点が17.6から始まっているが、金額マイナス200万円に対して、その平均点数を掛けながらこれに合わせた順位の方法で下げて、当てはめていけばちょうどよいのでは。まずは順位を基本に考える。1位から7位まで付いたわけだから。順位を基本に考えて、そして減額するのは、その順位の平均点が17.6から13.3までであるので、それをこの金額に当てはめて掛けて

いけば、この200万円というのはちょうど。

【水澤会長】

ということは、1位の順位の事業も減額をするということか。

【前川委員】

そのとおり。全体的にそうしないと。順位の1位は減額率が一番低くなる。

【有坂委員】

一番下が、減額率が1番大きくならなくてはいけない。だから100引く平均点を減額率に掛けていく。

【前川委員】

そうすれば、我々が決めた順位だから、それを基本的に考えなければならないと思う。

【有坂委員】

計算が難しいと思うが。

【前川委員】

計算は事務局がやるだろう。

【水澤会長】

率の減額ということか。

【有坂委員】

順位で率を変えていくという。

【土屋委員】

逆に。

【有坂委員】

順番に率を大きくしていくという。

【秋山委員】

やっぱり順位を一番優先してあげないといけない。やっぱり1位は1位の金額を、100パーセントの全額採択はしなくても。

【水澤会長】

上位の100パーセントはないということによいか。

【土屋委員】

ただ今言ったように、順位で決めるか、さっき言ったように平均点の割合で決めるか。

【有坂委員】

平均点は順位どおり。だから一緒。

【前川委員】

掛け率だけ違う。

【水澤会長】

有坂委員、それでよいか。

【有坂委員】

それでよい。

【土屋委員】

1位から7位までであるが、1位は例えば10パーセント、7位は30パーセントと、段階的にやっていくか、それとも平均点の割合で行くか。違うと思うが。

【有坂委員】

今前川委員が言ったのは、平均点の率で減額していくと。順位で。

【水澤会長】

ちょっと整理する。まず、当然今順位は出ている。平均点も上から下まで差はある。今ほどの3委員の意見は確実に、全事業を採択して減額ありということによいか。

【有坂委員】

私の意見は、最初に言ったとおり、防災に関しては100パーセントをみて、あとは一律減額するという考え方。今のは前川委員の話に対しての補足。

【水澤会長】

有坂委員は防災系の事業に対しては、100パーセントの採択で100パーセント補助するという意見。あとは減額をどうするかと。

【有坂委員】

減額は、一律減額という。

【泉委員】

防災を100パーセントという意見だが、今までいろいろと工夫しながら今日まで防災訓練をやってきたので、ここで100パーセントなくても防災はできると思う。それなりの負担を全員にしてもらおうというのが、前川委員の言っていたような減額で負担をしてもらいたい。

【高橋委員】

金額の割り振りの話が出ているが、その中で減額されたとして、和田の歴史を作る会で、本を発行されるということだが、もし減額されて発行部数が減った場合に、当初は和田区全戸に配る予定だったものが、例えば3分の1とか、それくらいになった時に、それをどうやって割り振って配るのか、それはどうするのかちょっと気にかかった。

【有坂委員】

それは提案団体が考えればよいことで、我々はそこまで考える必要はないと思う。我々は予算の中で割り振りを決めるだけである。

【水澤会長】

先ほどの質問で、減額をされた場合に事業を実施するかしないかと聞かれた時に、意外とはっきり答えた方と曖昧に答えていた方がいる。はなから事業は満額の補助額がないとできないとは言っていないし、以前もあったが、決定後、この金額が減額になるが、事業を実施するかどうかは決定後の判断でよいと思う。そこで例えば、いくつかの事業ができないということであれば、また新たな募集もあり、ということになる。それも今日皆さんの意見で、予算額610万円を超えた提案申請があるわけだから、全て610万円を割り振るということもここで決定できる。まずそこから決めるか。まず、採択をして、610万円は全部使い切るかどうか。

【有坂委員】

どこか諦めてもらうところを作るということか。

【水澤会長】

全部減額して610万円に抑えるから、それもあり。1つ2つを削ったらちょうど610万円に合えばよい。

【秋山委員】

少し残るのか。

【有坂委員】

残ってもいくらか残らない。

【水澤会長】

当然採択と補助額は同時に決めないと。1位から5位まで採択して、残りを切れば、610万円までにはならない。そのようにした方がよいのか、逆に610万円全て今回提案してもらった7事業に、いろいろと協議して振り分けするか。どちらかしかない。優先順位が上の3つしか駄目だから、あと4つは全部切って再募集するのがよいのかどうか。内容的に基本審査は適合している。優先採択事業かどうかの問いも、ほぼ皆さんが該当している。優先採択事業は和田区の私たちが決めた、こういう事業は和田区の優先採択事業だから、最優先に採択しようということ。ほぼ皆さんが適合していると答えているので。

【植木委員】

以前和田区全体のLED化について、広範囲で予算的にも金額的にも単年度では賄いきれない事業を、2年間に分割してやった経緯がある。だからそういう事業に匹敵する事業が、今回の提案の中にあるのかないのか。そういうことであれば、オーバーした分を次年度に回して、完結すると。その後については事業の継続性を考えた時に、今申請している事業ほとんどが、每期必要な事業で、今期はいくらかというような申請がなされているように見受けられる。今回の事業で継続、来年再来年見通しの出てくる事業があるのかないのか。そこら辺で、今年に限って、来年度に分割できる方法がないのかというのを公平な形で考えた時に、ただ一律に減額をするということよりもうまくいくような気がする。

【笠原委員】

個別にその年その年で考えるといろいろなケースが出てくるので、非常にストレートなやり方のようなのだが。点数を考え、当然200万円も予算オーバーしているので、事業をカットすると。こういうルールでやるのだと今回採用した時に、一方では非常にフェアな気がする。ただカットされるところにどう説明するか。このルー

ルだったら将来的にもずっといけると思う。あくまでも点数順だと。予算達成したら切ると。その時に1つ引っ掛かるのは、結局1年間頑張って提案したものをどう説明するか。それは提案者が考えることだと冷たいことは言えないから、そこは私たちの責任だと思う。

【水澤会長】

以前和田区は提案の数もなく、委員の皆さんが少しでも地域の皆さんから、いろいろな提案をしてほしいと動いてきた経緯がある。そのためルール化も曖昧になっていたかもしれないが、検討しながら決定したいと思っていた。ただ他の地域協議会では上からすばっと切っているところもある。それをしないのが和田区の良さでもあった。

【笠原委員】

しなくてもやれた。

【水澤会長】

やれたのもそうだが。ただ今回のように200万円からオーバーするとこれをどうするかということも、これから先のことも含めて考えなければならない。今回はここで決めてもらったことを、次年度活動支援事業が継続しているのであれば、来年の募集前にルールとして決めていけばよい話。ただ今回はこの中で決めなければならない。正直今日決まらなければ、別の日を設定してでも決めればよい話である。

【笠原委員】

有坂委員が言っていたとおり来年の担保はない。ただこうやってストレートなルールを作ってしまうと、何かしらこの協議会の中でガイドラインを決めてやらないと。ハートというか、頑張ると、そういうことくらい言えるのではないか。

【水澤会長】

採択しても、例えば附帯意見を付けたり、減額の理由をしっかりとお伝えするのが必要だと思う。

【橋本副会長】

内容をチェックして最優先にするものとして防災とか出ていたが、それを中心にして減額の方法を考えていくことと、それから来年に唾を付けてやるという提案も

あったが、今年減額された部分があるから、来年また提案してほしいと言われても、来年は来年の新しい事業が出てくるだろうし、それに圧迫されては困ると。いずれにしても内容を中心という考え。それから順位を中心にした考えは譲られない部分。点数もそう。やっぱりここで決着をつけないといけないとなると、先ほど前川委員から出たが、順位を大事にして、点数も加味した率を出して。面倒だが、これが一番文句は出ないと思う。もう1つ、何年も同じ事業について申請が出ているものについては、場合によっては内容を検討してもらって、唾は付けられないが、来年度以降に持っていけないかというのも加味してもらおう。やはり順位と点数を使った割り振りは、これは協議会としては譲れないのでは。あるいは手っ取り早いのは3割くらい予算よりオーバーしているので、7案件については一応承認しているわけだから、一律3割減らす方法もあるが、それでは味気がないのではないのか。

【秋山委員】

前川委員と一緒に、私達がつけた順位が1番主要になると思う。これを見ると適合する、しないというのものもあるが、それを言うとまた優先採択審査も、優先する人としらない人が出てきているので、やはり順位で。あとはパーセントで割ってもらえば1番よいのではないかと思う。

【橋本副会長】

内容を確認してということだが、それぞれがいろいろな考え方で順位を出したわけなので。繰り返しになるが、この順位と点数は尊重してもらいたい。それを元にいろいろな方法を出してもらいたい。

【前川委員】

確認だが、今回で610万円を全部分けるのか、あるいは残すのか、その判断は。はっきりさせてほしい。

【水澤会長】

610万円は全て、採択事業を決定した後に配分するのでよいかを諮り、委員全員の上承を得る。610万円は全て今回使い切ることになった。いろいろな意見が出たが、オーバーしているので、不採択の事業があると考えの方は。基本審査を不適合にしている方はあるのか。

【有坂委員】

2人いる。

【水澤会長】

この事業は不採択にしてよいか。

【有坂委員】

2人不適合だが、他の9人は適合していると判断しているので、不採択にする理由はない。

【秋山委員】

不採択にする理由はない。過半数取っているのです。

【植木委員】

過半数だから。

【水澤会長】

では全ての7事業採択としてよいか決する。減額するかしないかはまた後で。まず全7事業を採択してよいかを諮り、賛成10名、反対なしにより、採択することに決する。

ここから、610万円にするための減額が必要になる。減額するための色々な方法が、先ほどから各委員から出ているが、減額の方法はどうするか決めなければならない。まずいろいろな意見が出ていたが、全7事業全て減額対象とするかどうか。それとも減額対象としない事業があるのであれば全てを対象にしない。どちらかでよいか。全事業を減額してよいかを諮り、賛成9名、反対1名により、7事業全てに対して減額をするということに決する。

あとは減額の方法である。610万円に合わせなければならないので、減額をする方法を決めたいと思う。まだ意見の出ていない部分もあると思うが、こういう減額方法がよいというものがあれば意見を求める。有坂委員は100パーセント補助もありではなかったか。

【有坂委員】

そのとおり。

【水澤会長】

それがなくなったので、全事業が減額となった場合は、先ほど発言されていた率か。

【有坂委員】

私は先ほど前川委員が言われた、点数なり平均点の率で、我々が採点した意見を尊重して、減額率を変えていく。そういう方法が一番我々の意思を表現できるのではないかと考える。

【水澤会長】

ということは、事業予算に関しての額は一切見ないと。350万円などの大きな事業費もあるが。

【有坂委員】

大小関係なく、率で落としてよい。

【水澤会長】

全く事業費は加味しない。補助金も加味しないで、率でだけ計算するのがよいか。

【植木委員】

事業費の50パーセントを全て、この7事業に保証する。残った予算でこの順位、点数での差別化をプラスして、この610万円を使ったらどうか。

【水澤会長】

補助申請額の50パーセントは保証して、残りの減額比を決めて減額しようということか。

【笠原委員】

どういう方法が1番提案者に対してフェアなのか。そしてそれが1年で終わらず、これからもやれる部分にするべきか。それを考えた時に、半分は何とかじゃなくて、優先順位順ではないかと思う。全ての中身がこの合計点に入っているので、フェアな気がする。

【水澤会長】

フェア、アンフェアという点は大変難しいが、最終的には、本日出席された委員11名が審査した中で決定しなければならない。その結果というのは、合計点数がはっきり出ている。

【笠原委員】

得点比率を減額していった時に、ベースをどこに置くか。ベースをトップバッターのところにおいて、減額率を最小に抑える時に、これはどんどん減額していくわけである。最後の事業は恐らくやれない。もうギブアップしなさいと言っているようなものではないか。

【有坂委員】

ベースではない。要するに得点で減額の率を決めるということ。

【水澤会長】

今いくつか出たが、それでよいか決するしかない。今出ていた、全ての事業を採択するという中から、点数での減額率、当然低い点数では減額率が高くなる。ただ基準は、1位の事業も減額するとなっている。最低減額をいくつにするか。1位だけゼロならよいが。

【笠原委員】

ベースはどこにするのか。

【水澤会長】

先ほど植木委員が言われたように、50パーセントと言うのもありだが、逆に何パーセントの減額率を1番上にするか。その辺で意見があれば。減額ゼロはない。順位が1位の194点を取った事業も減額するとなったので、この減額率をいくつにするか。

【有坂委員】

この得点の合計は何点か。総計は出るか。

【佐藤センター長】

1,239点である。

【有坂委員】

満点は275点掛ける7事業分で、1,925点なので、この1,925点の満点に対して、各得点の率を出して、その率を1から引いて。上位ほど率が減るはず。それに事業費を掛けてそれを610万円に合うような調整をする。

【水澤会長】

得点率か。満点を基準にするなら。

【有坂委員】

満点はない。全体を減額するには、1番上位の点数も減額対象にする。試行錯誤しなければならないかもしれない。私も考えてきたが、出なかった。一定率ではなく、得点で率が変わってくる。

【橋本副会長】

得点の率を出すわけだから、総得点の1,239点に対して1位が194点。その率は使えないのか。

【有坂委員】

そうすると1位が減額ゼロになってしまう。1位も減額するためには満点の1,925点に対する得点の率で計算しないと、減額にならない。

【水澤会長】

1位の減額を例えば5パーセントか10パーセントか、そこから決めていく。

【有坂委員】

だから例えば減額率が、1位が5パーセントで、最下位が20パーセントなどになる。1番よいのは、計算が厄介だから、もう一律減額するか。

【水澤会長】

一律減額という方法もある。

【有坂委員】

ただ順位は加味されない。順位を加味するなら、今言ったような、これが正しいか分からないが、そんなやり方があると思う。

【水澤会長】

単純得点なのか、順位なのかということもある。仮に、順位で減額率を決める。

【有坂委員】

そうすると、1位は減額にならない。

【水澤会長】

いや、1位を減額してから。

【有坂委員】

頭を5パーセントなら5パーセントと決めてということか。

【泉委員】

頭で10パーセント引きにしたら、最後の順位の事業の分がなくなってしまう。

【有坂委員】

だから下をゼロにしないためにも。

【笠原委員】

204万5千円を得点比率で減らす方法はないのか。204万5千円減らせばよいのだから。

【有坂委員】

610万円越えているから。204万円を割っても駄目。204万円はないわけだから。204万円自体、減らさないといけない。

【土屋委員】

例えば350万円とか。

【市橋委員】

それを割って。引いていけば。

【泉委員】

平均で25パーセント減らさなければ。

【市橋委員】

引いてもよいが、最後の人の事業費が少なくなってしまうと、事業ができなくなるようでは可哀想だと。

【笠原委員】

だから得点比率でやる。

【有坂委員】

146点分の点数は入る。

【水澤会長】

少しまとめる。総減額は率でいうと約25パーセント。それを1位から7位まで割り振ると、細くなるが、例えば1位の減額が10パーセントと基準を決めて、残りを調整することはできないか。

【笠原委員】

そうすると下の順位の団体は事業ができなくなる。

【水澤会長】

事業ができないくらい減るか。平均25パーセントということは、ほとんど順位の真ん中より下の人は25パーセント以上カットということ。順位からいって、5、6、7位は20数パーセントからもっと減額ということ。

【橋本副会長】

総得点に対する率。それを使うのだろう。

【水澤会長】

1つの案として、総得点に対する獲得得点を7事業全部出してもらえるか。

【佐藤センター長】

1位でいえば、1239分の194の率か。

【秋山委員】

275分の194で得点率が出るのでは。

【有坂委員】

そのパソコンのエクセルは使えるか。

【秋山委員】

1つの事業に対して満点は275点、そのうちの合計で194点を取ったということはその率で出せば。掛けていけばよいのでは。

【水澤会長】

今事務局では、有坂委員が提案した率で計算をしている。

【笠原委員】

中間報告してほしい。得点比率だろう。

【有坂委員】

610万4千円まで誤差が縮んだ。

【水澤会長】

有坂委員に説明を求める。

【有坂委員】

出ている数値の中で、私たちの出した数字、合計得点194点から146点。この合計が先ほどの数字で、1,239点だった。この数字で計算してしまうと、減額がゼロになってしまう。それで1位も減額するというので、満点が1,925点。1,925点を分母として、この数字で割ると1番上が0.1、1番下が0.076。下の減額を大きくするには、1から今の数字を引く。そうすると1番上が0.9、1番下が0.924になる。だから減額が多くなる。それでその率、0.9から0.924までの数字を、申請額に掛ける。その掛けた数字を申請額から引いて出た数字の合計が739万円。まだ610万円にならない。610万円との比率が0.825になる。この0.825を全部の申請額に掛けると、合計610万4千円になる。4千円はまだ調整しなければならない。これくらいだと、1番大きいところから4千円を差し引くか。

【秋山委員】

下でもいい。

【有坂委員】

これなら得点に加味された減額方法になると思う。

【水澤会長】

有坂委員の説明について、理解できたか。

今回の7事業の提案に対して、皆さんからの意見で、全事業を採択し、なおかつ全事業を減額するという決定だったので、減額の方法として提案してもらった方法でいくと、(スクリーンに映された表の)1番右に出ている額になる。皆さんから見てもらって、610万4,324円、少し端数が出ている。どこかで4,324円減らさなければならないが。意外と優しく全団体に対して平等になった。

【秋山委員】

ちゃんとこの率でできたということ。

【有坂委員】

得点に加味され、率で減らしている。

【水澤会長】

いかがか。じっくり見てもらって、皆さんの意見をお聞きしたい。

【有坂委員】

これなら1番下でもゼロにならない。1番下でも7割くらい、という結果。
これは千円単位にしたら、合計がちょうどになるか。

【秋山委員】

千円単位で切り捨てにしたらどうなるか。随分減るか。

【佐藤センター長】

7番が0.924で1番が0.9。0.9より0.924の方が大きい。

【有坂委員】

数字が逆である。申請額を掛けてはまずい。上下の順番を入れ替えるか。1から引いた数字を掛けて、申請額から引いて計算すれば良かった。

【秋山委員】

皆さん70パーセント以上は出るということ。

【有坂委員】

数字を入れ替えて。1番上を0.924にして、その次915、906、905、905、903、1番下が0.9となるように上下を入れ替える。そうすると737万5千円となり609万9千円。

【秋山委員】

順位1位の団体に1千円を上乗せしたらよいのではないか。

【有坂委員】

率ではそんなに大きい差はない。

【水澤会長】

結果が出た。減額率が平均で約25パーセントくらいだから、1位で23パーセント。下が26パーセントくらい。

【有坂委員】

よいのでは。それ以上差をつけても。

【水澤会長】

皆さんに確認を求める。満点275点、その194点。それに対して、一番下位も146点ならそんなに差は出ない。230点、40点取っていると、150点

しかないというのと、随分意味合いが違う。やはり得点比率にすると、委員の皆さんはあまり大きく差をつけていないということ。

【笠原委員】

僅差。

【水澤会長】

本当に僅差。

【有坂委員】

個々には差があるが、11人集まると一緒の点数になるということ。

【水澤会長】

有坂委員が提案した計算方法を採用し、この方法に決することでよいか。他に意見があれば。総括すると、和田区の委員は優しいと思うし、提案してもらった事業者に対しての思いだと思う。最終的にこの減額方法で計算した額でよいかを諮り、賛成10名、反対なしによりこの減額方法とすることに決する。

いろいろな意見が出て、異論もあるかと思うが、これが和田区の委員の皆さんの総意ということで理解を願う。全7事業採択及び減額方法が決まったが、最終決定額はこれでよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

附帯意見等についてはいかがか。皆さんの中から附帯意見があれば、何番の事業に対して、こういう意見を付けるといった発言をお願いしたい。

【有坂委員】

附帯意見を付ける必要はないと思う。足りない分は他の事業から捻出してほしい。

【水澤会長】

全ての事業を必ず実施してほしいと。

【笠原委員】

足りない分は提案者が考えることになっている。

【水澤会長】

必ず事業は実施することというのも必要。足りないからやらないというのでは、610万円を振り分けた意味がない。全事業提案者には再度精査の上、必ず事業の実施をお願いする。足りない分は自助努力等をお願いするというような附帯意見で

よいかを諮り、委員全員の了承を得る。

附帯意見は全ての団体に対して行うこととする。

予算配分された最終結果を順位順に述べる。

- 1位 住民の安全・安心対策と交流促進事業 44万4千円
- 2位 上越妙高駅でひな祭り事業 41万6千円
- 3位 和田小学校PTA 野球部・バレーボール部活動支援事業 46万7千円
- 4位 大和5・6丁目自主防災活動支援事業 46万8千円
- 5位 和田の歴史を作る会事業 265万4千円
- 6位 今泉城跡の大ケヤキ保護活用事業 113万4千円
- 7位 音楽文化による上越妙高駅とその周辺地域の賑わい創出事業
51万7千円

総合計610万円、以上の配分としてよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

委員の皆さんからいろいろな意見を出してもらい決定した事項。各事業提案者には減額された分はあるが、必ずしっかりとした事業を実施してほしいという附帯意見を付けてよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

—事務連絡—

【水澤会長】

事務局に事務連絡を求める。

【佐藤センター長】

- ・次回協議会：後日日程調整
- ・地域活動支援事業は、採択結果を受け、速やかに補助交付決定を行う
- ・配布資料

高田区地域協議会意見書（写）

板倉区地域協議会意見書（写）

創造行政研究所ニュースレター「創造行政」

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求める。

【泉委員】

先ほど議論の中で、次年度以降は約束できないという話だった。ぜひ会長会議の中で、次年度も地域活動支援事業を継続してほしい旨を要望してほしい。

【水澤会長】

会長会議は毎年あるか。

【佐藤センター長】

開催する。

【水澤会長】

今の意見をしっかり伝えたい。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。